

【日 時】平成18年7月21日(金) 19:00～21:10

【場 所】下山支所2階会議室

【出席者】委員14名(欠席2名)

企画課 小栗課長 安田主幹 鈴木係長 初田技師

事務局 支所長 副支所長 酒井 川合

【次第】1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 総合計画の主旨と日程について

(2) 地域の現況と課題について

(3) 意見交換

4 閉会

---

【内 容】

1 会長あいさつ

2 第7次総合計画について

(委員) 市町村合併という大きな変動があった中で、第6次の総合計画がまだ5年残っているわけではありますが、今の総合計画を5年残しているが早いところ見直して前倒しして第7次総合計画を作成していくということなのか。また、第7次総合計画は新市計画を基本的に見直していくのか。

(企画課) 今の予定ですと平成20年度から第7次総合計画をスタートさせていきます。新市建設計画については「尊重」していきます。

(委員) この豊田市をどういう街にしていこうかという部分で、出されている基本構想の部分が一番重要であると思うのですが、どういう形でどういうメンバーで決めていくのでしょうか。

(企画課) 総合計画審議会があり、37名の方がみえます。そこには大学の先生だとか、各種団体の代表者の方にご参加いただいております。また、今日のような地域会議とかいろいろな場面で意見をいただきながら、庁内の原案検討部会だとか総合計画策定委員会で、基本構想の素案を作っていきます。

(委員) 農地銀行があるように森林銀行を創設していただきたいと思います。新しい市になって、広大な面積になったわけではありますが、その面積の70%を山林が占めています。その山林を活用して、素晴らしい森林都市をつくっていただきたいと思います。行政がうまく仲介役をしていただき、仕事は別の団体で行ってもいいわけでありますので、貸す人の

安心、借りる人も安心ということが第一条件であります。貸す人も借りる人も喜ぶような利用方法ができたなら、素晴らしい森林都市ができていくのではないかと思います。

(企画課) 現在、森林関係の条例や森づくり計画といったことを新たに森林課をつくりまして、検討しています。今年から森林学校で人材育成を始めていますが、少し時間をかけながらやっていきたいと思っています。

(委員) 団塊の世代が今後10年の間にかなり定年退職されます。それを受ける受け皿があるかといったときに、豊田市は大きな農業生産組織がありますが、そこに入るスペースがだんだん無くなってきます。

(委員) 都市内分権ですが、権利もお金も分権していただいて、支所長の権限で、もう少し融通の利く予算ができればと思います。

(企画課) 都市内分権はまだ始まったばかりでありまして、まだ試行錯誤しながら進めております。都市内分権というのも総合計画のなかでは、ひとつ大きなテーマでありますので、この広い市域が、今言われましたようにどの地域も特性が無く同じような地域になっていってしまうのは困りますので、今日いただいた意見を持って帰りたと思います。

(委員) 廃校利用をして、都市と山村の交流を深め、田舎のよさを知らしていくようなことができればと思います。

(委員) 自分たちが定年になって、子供がいなくなったら下山にずっといるだろうかとすごく不安です。医療機関もあまり充実していませんし、孫とかが生まれたとしても実際に働くときに自分たちが子供を見る以外に、子供をみてるような学童保育所もありません。

(委員) 田舎は緑があり自然がありいいと言いますが、自然というのは人間が作った自然が人間が感動する自然であると思います。ほったらかしの遠くから見る緑というものは、いいように見えるのですが、そこに実際に入ると、実際に厳しいわけでありまして。地域の特徴を踏まえていただいて、子供の数が少ないから学校の数少なくしようというのではなく、どういう子供を育てたいからどういう施設が必要であるという考えでお願いしたい。

(委員) 合併の作業の中で、都市と農山村の共生、地域の伝統文化を継承するとか、流域は運命共同体ということで期待しています。

(委員) 下山地域は高齢者を受け入れる地域でもいいと思います。それは、高齢者に何か充実した施策を行い、地域性を生かしていくべきではないかと思います。特に農山村は、農業・林業を守っていくために50歳から70歳代が中心になってきます。

(委員) これからの高齢化社会や通勤・通学の面からいいましても道路整備が重要になってきます。